

# ふるさと奥尻通信

平成25年11月29日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭語

冷えてきました。着実に冬が近づいているようです。だんだん時化でフェリーの欠航が出るようになってきましたね。みなさん冬支度は済みましたか？師走に向けて急げ急げ～！

## 特集 奥尻島とネズミ

今年は10月初旬ころから道路でのネズミの目撃例が相次ぎ、島内各地の家で捕獲騒ぎとなっています。久々にネズミ大量発生の様相を呈しております。奥尻地区のある家ではもう20匹近く捕獲したとか。捕獲個体を観察したところ、今回はアカネズミのようです。

奥尻でネズミ騒動が起こるのは過去にも記録があります。古いものでは、明治16年(1883)～24・25年(1892)頃にかけてのもや、明治34年(1901)があり、その後、昭和23年(1948)、同29年(1954)にも大発生したようです。

この時のネズミの種類は、エゾアカネズミであり、それは島が豊富な森林に覆われていることによるという調査結果がでています。また、堅果類(ブナ、ミズナラ、クリ、クルミなど)が豊富になった年の翌年は、個体数が増大するという相互関係が認められているそうです。また、ネズミの多い年の翌年は、捕食するためにヘビが多く出るとい話しも聞かれますので、自然界の食物連鎖がそのまま人間の目に触れることになったと考えると、大量発生の理由が納得できるかと思えます。



津波館で捕獲されたアカネズミ



捕獲かご 原始的ですがよく捕れます 粘着シートで捕獲されたアカネズミ



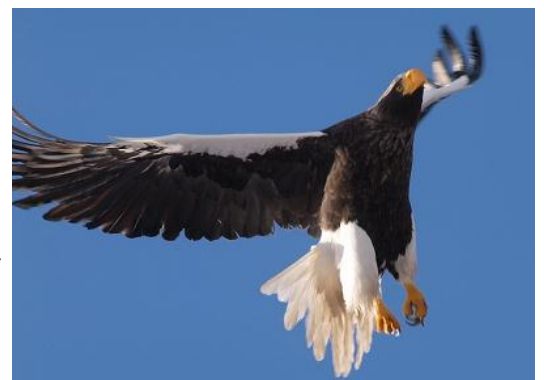
大胆にも人前で米粒を食べにきたアカネズミ

20年前の北海道南西沖地震の年(1993年)にも、島内でネズミ大量発生が確認されていました。そのため、これが地震の前触れだったのではないかとささやかれたりもしました。今から10年前頃にも今年以上に大発生し、“地震か!?”の噂が飛びかったそうです。天災の前後に自然界の異常が確認され、人々が口にするという事例は全国各地にあり、生物学的だけではなく、歴史学的、民俗学的にも興味深いものがあります。しかしながら、決め手を欠きまして、断定するまでに至らないのが現状です。人はどうしても何かの出来事を、物事のきっかけとして結びつけてしまう傾向にあり、原因を求めがちです。冷静な分析眼で観察せねばならないでしょう。

さて、当面のネズミ対策ですが、①室内を清潔に保つ。②エサとなるものを放置しない。③捕獲ワナ、粘着シート等で個体数を減らす。④殺鼠剤を置く。⑤隙間をふさぐ。などなど。また家庭のイヌ、ネコに活躍してもらうのも良いでしょう。家猫はネズミに反応しないと言われますが、本能を呼び覚ますかもしれませんね。

ネズミの天敵は、ワシやタカ、イタチ、ネコ、ヘビなどですが、奥尻ではタヌキの繁殖が見られ、今では島内に2000頭以上いるらしく、すでに島の人口を上回っているのでは？とも言われています。雑食性なのでネズミもそれなりに食べている事でしょう。タヌキはけっこうすばしっこいので、活躍に期待したいですね。ちなみに、このタヌキは昭和13年(1938)に50匹ほど放したのが繁殖し、現在のタヌキの楽園となったようです。

参考文献：太田嘉四夫1956「北海道の離島の鼠類」、同1957「北海道奥尻島の鼠類」



俺にまかせろ！ 長浜のオオワシ 撮影：小林隆昭



あまり期待されてもなあ…とタヌキさん 5月



昭和41年1月1日、奥尻は町制施行となり、奥尻村から奥尻町として新たな船出となりました。明治21年(1888)に市制及び町村制が公布され、翌年から施行されました。しかし、北海道や沖縄、島嶼部などは例外とされ、別制度のもとに置かれました。北海道の場合は、明治33年に一級町村、同35年に二級町村が置かれ、昭和21年まで等級制度が続きました。奥尻村には二級町村制がしかれ、昭和18年には制度改正により指定町村となりました。戦後の同22年には普通地方公共団体となり、同41年町制施行後、現在に至ります。

初代町長は、奥尻村長2期目であった上埜賢がそのまま移行し、以後昭和46年まで4期務めました。また、昭和40年の国勢調査によれば、島の人口は7138人で、前回の同35年より30世帯増、770人減となっていました。当時の記念行事としては、2月に奥尻小グラウンドで雪祭り、5月には2日間の釣り大会、児童生徒作文募集などがあり、7月24、25日にかけて祝賀式典が盛大に開催されました。他に、現在シンボルとなっている町章も新たに制定され、お祭りでおなじみの「奥尻音頭」も制作されました。



記念の雪祭り(奥尻小学校)



祝町制施行のネオン(役場庁舎)



奥尻の町章



奥尻音頭

月刊 奥尻のつり 11月号

今月は主(ぬし)の話。岩場や港の隅にはとんでもない大物魚がひそんでいるものです。長年住み着いた主です。それが時々釣れまして、皆を驚かします。岩場で遭遇するソイやカジカは55cmを越えてくると超大物で、年に1匹出るかどうかです。港に住みついたアブラコでも50cm級がいますし、岸近くのちょっとした岩場にも30cm半ばのハチガラが釣れることが判っています。11月末時点で今年の大物は、北国岬のクロガシラが47cm、屏風立岩のクロゾイ55cm、ババ崎のハチガラ33.7cmなどです。このハチガラは、「北海道のつりベスト100」のポイント換算(身長+魚の持ち点。ハチガラは68点)で101.7点、2012年全道ランキングと比較すると、30位タイの記録に相当します。ハチガラは成長が遅い魚のようで、30cmを越えることはなかなかありません。

昭和奥尻生活詩 11回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

朝に  
 今朝は馬鹿に寒いなあ  
 水汲みは出たら寒いなあ  
 指先がしびれたらよ  
 二度行つて来たよ  
 冷たい船火口手をかざした  
 大漁船が帰つたらしい  
 鳥の吐息が背に刺さる  
 が凍った  
 つれい  
 な  
 づ  
 な  
 つ  
 て  
 つ  
 る

小坂ミサ

会員化し八もあた日避のにもが祭入戸、りだ前難イは例生芸期れ港こまけ後し力大年ま能間がののせでにて釣時でれ発中あ船時ん、五きり化すとま表だりかにでそ隻ま漁がとしをつ、ら入しのぼす船あ、た鑑たち、つた後か。がつ一。賞のよイた。のり今たてすでう力青そ入来年く、月の、どの森れ港港はさき他下機船文差県ではし九ん県旬

避難船今年も少なめ



せんべい焼きの様子

文化祭でせんべい焼き  
 たき出べをが再する取れのサが  
 。手い溶再活しせりま展開先日、  
 はほでい現用がん組し示ク催さ、  
 忙どしたさし設べみた会ルさ、  
 のただれたけいと。やにれま奥  
 く人がけま昔ら焼し今芸よま尻  
 し出、のしのれきて年能るし町  
 と順簡たお、の、は発手て総  
 いな番素。菓古実有、表作、合  
 まり待な小子道演志新が行作内  
 し、ちせ麦作具コにた行作内  
 焼がん粉りをよなわ品祭

11月に一度寒気が来て、ドカッと雪が降るのはなぜでしょうね。数日で無くなるとは言え、タイヤ交換で焦りますね。読書の秋してますか？海洋センターの図書利用が少ないので、運営方法を工夫しようと思っっているのですが、なかなか。冬場でも暖かくしてありますので、ご利用下さいね。わが家もネズミとの知恵比べ中です。もう10匹ほど捕獲しました。

新刊之記録(編集後記)

新刊こ1一そ昭昭腰非員海  
 なの00れ和和ぬご選洋  
 ど他00で史史け利用本セン  
 が、世年年「も、戦後日、  
 あ、児界前前戦、戦後日、  
 り童ののの争日、  
 ま書、民写世、本、  
 す、族真界を人、  
 。話衣で一選は、  
 題装見周ん、  
 のるだ

新刊入りました!



NHKロケ 昭和41年頃